

ダイズモザイク病と倒伏に強い 寒冷地向け大豆新品种「あきみやび」



水田作研究領域

菊池 彰夫

KIKUCHI, Akio

現在、東北地域の大豆作は、作付面積が全国の25%、収穫量が全国の21%を占める一大産地となっていますが、10アール当たりの収量や品質が全国平均より低い状況にあります。その中、東北地域で最も作付面積が多い宮城県では、中生種の「タンレイ」が主力品種として作付けされています。しかし、「タンレイ」はダイズモザイク病にかかりやすい上、年によっては紫斑粒等の着色粒が発生するなど品質の低下が問題となっています。

そこで、農研機構東北農業研究センターでは、早生種の「フクシロメ」と大粒でダイズモザイク病に強い「刈系623号」を交配して、ダイズモザイク病などの病害に強く、子実の着色粒が少ない大豆新品种「あきみやび」を育成しました。この品種は、コンバイン収穫向きで、豆腐などの加工にも適しています。

「あきみやび」より大きく外観品質に優れるとともに、蛋白質含有率が「タンレイ」並に高いので、豆腐などの加工にも適しています（表2、図1）。

《「あきみやび」の栽培上の留意点》

「あきみやび」は、成熟期が「タンレイ」とほぼ同じ中生種で栽培適地は東北地域中南部です。ダイズシストセンチュウにはやや弱いので、センチュウ被害の発生した大豆畑での栽培は避ける必要があります。

《「あきみやび」の今後への期待》

「あきみやび」は、宮城県で主力品種の「タンレイ」の一部に置き換える奨励品種として採用され、1,000ヘクタール程度の普及面積が見込まれます。今後、この地域の大豆の安定生産に貢献することが期待されています。

なお、「あきみやび」は、倒伏に強く、優美で良質な大豆を秋に無事収穫できることを願って名付けられました。

表1／「あきみやび」の病虫害抵抗性

品種名	病虫害抵抗性		
	ダイズモザイク病	紫斑病 (発病粒率)	ダイズシストセンチュウ
あきみやび	強	中 (5.5%)	やや弱
タンレイ	中	中 (12.9%)	弱

(検定場所: 育成地および特性検定場所)

表2／「あきみやび」の主な生育・品質特性

品種名	成熟期	子実重 (対タンレイ比)	倒伏程度 (評価値)	最下着莢 節位高 (実測値)	百粒重	子実中 蛋白質 含有率
あきみやび	10月15日	418kg/10a (102)	無 (0.4)	中 (19cm)	34.4g	44.0%
タンレイ	10月15日	411kg/10a (100)	微 (0.8)	中 (18cm)	31.9g	44.7%

(栽培場所および年次: 宮城県古川農試、2008~2012年)

《「あきみやび」の特徴》

「あきみやび」は、「タンレイ」と比べて、ダイズモザイク病に対して強い抵抗性を示し、紫斑病に対して発病粒率が低く抑えられます（表1）。また、倒れにくく、莢の高さも適正範囲にあるため収穫作業によるロスも少なく、コンバイン収穫に適しています（表2）。さらに、子実が白目で「タ



あきみやび

タンレイ

図1／「あきみやび」の子実
(栽培場所および年次: 宮城県古川農試、2012年、各200粒)